

令和3年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問題

『これまでの作物栽培では、選抜と交配および戻し交雑などを経て作出された、代々同じような形質を示す固定種（例：コシヒカリなど）、あるいは、地域の気候風土や栽培環境に順応した独自の在来種（例：地域ごとに異なる形質を示す地ダイコンなど）から採れる種子を利用することが一般的であった。現在ではこうした作物種子の希少性が高くなってきており、消費者などからもこれらの種子で栽培した作物が珍重されつつある。希少性が高くなった一つの要因として、F1 品種^(注1)の導入が挙げられる。F1 品種は作物生産や収穫物の利用において利点がある場合が多いため、利用頻度が増加してきた。一方で、F1 品種から採取された種子の形質は不揃いとなることが多く、累代栽培^(注2)には不利となることから、利用する度に種子を購入しなければならない。このため生産者においても、種子は「採取するもの」という認識から「購入するもの」という認識へ変化しつつある。』

(注1) F1 品種：

異なる品種をかけ合わせることで得られた「雑種」の第一世代。「雑種強勢」という現象により、その一代に限り、両親より優れ、均一な性質を示すことが多いと知られている。

(注2) 累代栽培：

何世代にもわたり、栽培と繁殖を行うこと。

問：文章に示されている下線部の傾向が顕著になると、どういったことが懸念されるでしょうか。生物学的、経済的、環境的、および社会的な側面から、あなたの考えを 1000～1200 字でまとめて述べなさい。

令和3年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

出題の意図

農学部は「農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志す人」を求めており、食料生産環境の維持と発展を継続的に行うために必要とされる基礎的知識を問う。また本学科の求める学生像（アドミッションポリシー）には、「生物資源・環境の機能や特性の解明に興味をもつ人、生物生産と自然環境との調和を目指す人、生物多様性の理解を通じて環境保全に貢献したい人」を掲げている。問題文を通じて社会的側面なども関与する食料生産、および生産を支える技術などを含めた生物生産、生物資源、環境および生物多様性との関連性を受験者に想起させるとともに、農業生産に関する基礎知識と文章の読解力、発想力、論理性、自分の意見をまとめる能力を総合的に評価する。